おてら

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会

写経会
毎月第二・四金曜日
午後一時より

報恩講

十一月十六日（火）

午前十一時より

おときは中止致します

浄土真宗のご開祖親鸞聖人の御祥月御命日に
ご宗祖のご苦労を偲び感謝し、そのみ教えを
味あわせていただき、明日の私の生きる糧と
させていただく法要です。
どうぞご参拝下さい。

念仏者は無碍の一道なり

住職　蒲原　霊英

この言葉は『歎異抄』第七条にあり、「念仏する人は、何ものにもさまたげられることのないただ一筋の大道を歩むものです」と、親鸞聖人が述懐されたと記されています。それでは、ご聖人の境遇においてさまたげになるような事は無かったのでしょうか。決してそうではありません。まさに逆境と言える流罪、長男との義絶、戦乱、飢饉、火災や疫病など困難な出来事が次々と起こりました。このような苦難の生涯に対しても、ご聖人は確信を持って「無碍の一道」と断言され、お念仏の道を貫いて生き抜かれました。これは、念仏をするとこれらのさまたげが無くなるということなのでしょうか。

ご聖人は、念仏のはたらきについて、主著『教行信証』「行巻」で「至徳の風静かに衆禍の波転ず（功徳の極まりである念仏は、静かな風のようであり、絶え間ない波の如く繰り返し起こる困難な出来事を転じていく）」と示されています。困難で苦しい出来事が起こった時には、そこから逃げたり忘れようとしたりするのではなく、現実のすべてを自分に与えられた仏縁としてあるがままに真っ直ぐに受け止め、その原因をしっかりと見つめて、自分自身で解決していかなければならないが、それらを乗り越えられた時、すべてが生きるための心の糧として転じていくのだということです。すなわち、南無阿弥陀仏のお念仏をするということは、阿弥陀様にすべておまかせし、どんな出来事でも阿弥陀様のおはからいと思ってあるがままにいただいて、それも糧として自分の人生を豊かに歩んでいくということなのです。このように、いつも「南無阿弥陀仏」とお念仏申して何事もあるがままにいただいておれば、どんな困難も困難とも思わず、さまたげとも思うことはないので、ご聖人は「念仏者は無碍の一道なり」と言い切られたのです。

とは言え、どうしようもない多くの困難に直面しながら生きている私達にとって、現実をあるがままいただけと言われても、非常に厳しく感じられるかもしれません。しかし、阿弥陀様はいつも私と一緒に居てくださり、「大丈夫、そのままのあなたで大丈夫」と、現実を受け止められない私、一歩踏み出せない私、失敗続きの私、そんなダメな自分が嫌になってしまう私を、そのまま肯定してくださいます。南無阿弥陀仏はまた、私に向けられたエールでもあるのです。ありがたくお念仏の道を歩ませていただきましょう。合掌

永代経法要・中日法要

彼岸の入りの九月二十日午後七時から、この一年間に永代経をご進納くださった方々をご招待し、浄光寺総永代経法要が営まれました。献灯・献花・献供物の後に読経が始まり、参拝者の方々が順次ご焼香。御文章拝読の後、住職よりご法話があり、本山御用達のお供物（亀屋陸奥「松風」）と記念品が下付されました。

永代経は、その時できる人ができる事をさせていただくことで、皆で永代にわたり仏を供養し、み教えが伝わってゆくようにするという、相互扶助たる「お互い様」の精神をもって受け継がれて来ました。毎年日本の何処かで甚大な災害が起こり、多数の寺院やご門徒も大変な被害を被っています。そこで、皆様からお預かり致しました浄財は、ご本山で災害復興支援等にありがたく役立たせていただいております。

二十三日午前十一時からは、彼岸中日法要をお勤め致しました。今年もお斎は取り止めましたが、皆でお勤めできることに感謝してお念仏申しました。

本願寺ゆかりの銘菓

松　風

（亀屋陸奥）

元亀元年（1570）に始まり、11年間続いた織田信長と石山本願寺（現在の大阪城の地）の合戦の最中、当家三代目大塚治右衛門春近が創製した品が兵糧の代わりとなり、信長と和睦の後に顕如上人が

わすれては波のおとかとおもうなり
まくらにちかき庭の松風

と、京都六条下間邸にて詠まれた歌から銘を賜り、これが「松風」の始まりだと伝わっています。（HPより）

西本願寺の七不思議 その４

鬼の手水鉢

境内の奥庭に、これといった特徴のない普通の手水鉢がありますが、この手水鉢に使われている石は元々は羅城門にあった石で、源頼光の家臣で四天王のひとりである渡辺綱が鬼の腕を斬った後、屋敷に持ち帰り、しばらくの間その鬼の腕を入れていた石櫃（石製の箱）に使われていた石だと言われています。それを手水鉢としたが、夜になると泣き出すので本願寺に寄付されたのだと言われており、この手水鉢は「鬼の手水鉢」とも呼ばれています。

源頼光は、天皇から大江山に住む酒呑童子とその一族を征伐するようにとの勅命を受け、渡辺綱・坂田金時・卜部季武・碓井貞光・藤原保昌らを率いて酒呑童子の首を斬り落とし、配下の鬼達も退治したという伝承が残っています。渡辺綱が持ち帰った鬼の腕とは、史上最強の鬼、大江山の酒呑童子の腕なのでしょうか。

月忌納め法要
（おみがき）
十二月十六日
午後一時より

仏様ご先祖様に一年の感謝を申し上げましょう

除夜会法要
十二月三十一日
午後十一時半より

除夜の鐘をついてみませんか

豚汁の振る舞いがあります